

～みんなで考える感染症予防～

特別活動 学級活動(2)ウ「心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」教材

本教材は、感染症の広がり方や予防方法を、クイズやグループワークを通して学び、児童が自分たちの学校生活や日常生活を振り返りながら、自分や周囲の健康を守るためにできる行動を考えることを目的としています。また、友だちと話し合う活動を通して、感染症予防を自分ごととして捉え、健康で安全な生活態度や習慣を身に付けようとする態度を育てることを目指します。

1. 教材の概要

単元(対象学年)	特別活動 学級活動(2)ウ「心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」 対象: 小学校第6学年を中心に活用可能
教材構成	スライド教材: 感染症のしくみや予防方法をクイズやイラストでわかりやすく提示する授業用教材。 ワークシート: 感染症の基本の理解や、自分の生活を振り返って今日からできる目標を記入する教材。 発表シート(グループ用): 感染症予防の方法をグループで考え、発表内容を整理する教材。
準備物	PC、モニター(プロジェクター/スクリーン)、スライド教材、個人用ワークシート、グループ用発表シート

2. 題材選定の理由

感染症は、児童の日常生活や学校生活に身近な健康課題であり、手洗い、咳エチケット、換気、生活習慣など、日々の行動と深く関わっている。

本教材では、感染症のしくみや予防方法をクイズやグループワークを通して学び、児童が自分たちの学校生活を振り返りながら、感染症予防のためにできる行動を考える。また、友だちと話し合う活動を通して、自分や周囲の健康を守るための行動を選び、実践しようとする態度を育てることをねらいとする。

3. 本時のねらい

感染症の広がり方や予防の考え方を知り、自分たちの学校生活や日常生活を振り返りながら、感染症を予防するためにできる行動を考え、実践しようとする態度を育てる。

4. 単元の評価基準

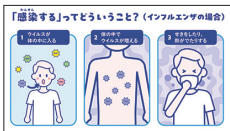
集団活動や生活についての知識・技能	集団や自己の生活上の課題を解決するための思考・判断・表現	主体的に生活によりよくしようとする態度
感染症が広がりやすい行動や、感染症予防につながる行動について理解している。	自分たちの学校生活や日常生活を振り返り、感染症予防のためにできることを考えたり、友だちと話し合ったりしている。	自分や周囲の健康を守るために、感染症予防につながる行動を進んで実践しようとしている。

5. 授業での配慮事項

予防接種について扱う際は、接種の有無を児童に尋ねたり、接種を一律に勧めたりする扱いは避けます。予防接種は、感染症予防の方法の一つとして、体が病原体に備えるための練習であることを説明し、必要に応じて家庭で確認するよう促します。また、家庭の事情、健康状態、体質、既往歴、接種状況などに関わる内容を児童に発表させたり、特定の行動を強制したりしないよう留意する。

6. 本教材の活用について

本教材は、授業のねらいや児童の実態、授業時間、学校の状況に応じて、スライドの順序や使用枚数を適宜調整して活用できます。すべてのスライドを使用する必要はなく、授業内容に合わせて一部のみを使用したり、必要に応じてスライドを追加・削除したりすることも可能です。

	学習活動	スライド	指導上の留意点
導入 3分	1.自分たちの生活を振り返る ●学校生活の中で、病原体が広がりやすい場面や、感染症予防につながる行動について考える。 【導入】今日は、インフルエンザなどの感染症を予防するために、自分たちの学校生活の中でできることを考えます。	 	◆児童を責める活動にならないよう、「よくない行動を探す」のではなく、「予防につながる行動に気づく」活動として扱う。
感染症の基本確認 7分	2. 感染症の基本確認 ●数名に発言させて確認する程度とする。		◆この後、自分たちにできる予防行動を考えるために、感染症の基本を短く確認する。
	2-1. 病原体が広がりやすい行動 2分 【発問例】教室の中で、「病原体が広がりやすい行動」はどれでしょう。 ①外遊びの後、手を洗わずに鼻をさわる ②窓を開けて空気を入れかえる ③口元をおさえずにくしゃみをする ④アルコールで消毒する ⑤石けんで手を洗う ⑥隣の席の人とおしゃべりする ●病原体が広がりにくい行動・・・②④⑤ ●病原体が広がりやすい行動・・・①③ ●場合によって病原体が広がりやすい行動⑥		◆イラストを提示し、「病原体が広がりやすい行動」を児童に数名発言させる。 ●感染しやすい要因や予防策 ①汚れた手から病原体が体に入る。 ③咳やくしゃみをする時は口元を抑える「咳エチケット」を心がける。 ⑥隣の席の人と話すことなど、通常は問題ない行動については、体調が悪い時や感染症の流行時には注意が必要であることを補足する。
	2-2. 病原体の侵入経路 1分 【説明内容】病原体は、目に見えないが、主に口・鼻・目などから体に入ります。		●ほかに傷口が病原体の入口になることもある。傷口は、水道水(流水)でしっかり洗い流すことを確認する。
	2-3. 感染のしくみ 2分 ●インフルエンザを例に感染するしくみを理解する 【説明内容】感染するとは、病原体が体の中に入り、体の中で増えることです。 ●「感染」は、体の中で病原体が増えること ●厳密には感染と発症は区別される。	 かんせん 体の中で感染…病原体が増えること	●スライドの流れ(インフルエンザの場合) ①インフルエンザウイルスが体に入る ②体の中でウイルスが増える ③その結果、咳や熱などの症状が出る ●本教材では、小学生の理解に合わせ、感染から発症を一連の流れとして扱う。
	2-4. 症状の意味 2分 ●咳や熱、鼻水などの症状はつらい。症状の意味を考える。 【説明内容】咳や熱、鼻水などの症状はつらいものですが、体が病原体を体の中で増やさないようにしているサインでもあります。	 しょうじょう 病原体を体の中で増やさないようにしているサイン	●咳やくしゃみは、体が病原体や異物を外に出そうとする反応である一方、周囲に広げることがあるため、咳エチケットが大切であることに触れる。 ●ほかに食欲不振や眠気の症状は、体が休息を必要としているサインでもあるため、無理をせず休むことも予防につながることを確認する。

	学習活動	スライド	指導上の留意点
グループワーク・発表 25分	3. グループワーク・発表 感染症予防の3つのポイントで考える 【発問例】自分たちの学校生活で、インフルエンザなどの感染症を予防するために、どんなことができるでしょうか。 スライドの3つのポイントに分けて考えましょう。 ● 予防のポイントとワークシート記載例 ● 複数のポイントに当てはまる具体策もある。 ● 3つのポイントと主な具体例 ① 病原体をなくす：感染源対策 手洗い、消毒・清掃、健康観察、体調不良時は無理せず休む、感染者の隔離・出席停止など ② うつる道筋を断つ：感染経路対策 換気、マスク、咳エチケット、手洗い、消毒・清掃、人込みを避けるなど ③ 抵抗力を高める：感染しやすい人の対策 睡眠・休養、栄養、運動、予防接種など ● 手洗い：爪の間や指先まで洗い、清潔なハンカチで水分をふき取るなどを指導する。		● 感染成立には「感染源（病原体）」「感染経路」「感受性宿主（感染症にかかりやすい人）」の3つの要素がそろう必要がある（感染症成立の三大要因）。 ● 3つのうち、どれかひとつでも取り除くことができれば、感染症を予防できる（感染症予防の三原則）。 ◆ 複数のポイントに当てはまる具体策があるため、分類の正解にこだわりすぎない。 ◆ グループワークの進め方 1. 3つのポイントを確認(2分) 2. 各自でインフルエンザの予防行動を考えワークシートに記入する(5分) 3. 各自の予防行動をグループで共有し、発表シートに整理する(12分) 4. グループ発表(4分) 5. 発表後のまとめ(2分) ● 代表数グループの発表として、残りは掲示・共有に回すと時間内に収まりやすい。
	4. 目標設定・まとめ 4-1. 病原体に負けない体づくり 3分 【説明】感染症を予防するには、病原体を体に入れないことや、広げないことだけでなく、病原体に負けない体をつくることも大切です。 休養・睡眠、栄養・食事、運動など、毎日の生活習慣を整えることが、体の抵抗力を高めることにつながります。予防接種も、体が病原体に備える方法の一つです。 睡眠・食事・運動の3つを整えることが大切です。 【休養・睡眠】午前中に眠くならないよう十分に眠ること。 【栄養・食事】自分の体に合った食事バランスよく栄養をとること。 【運動】遊びや運動で毎日あわせて60分程度体を動かすことを目安にしましょう。 暑い時期は、水分補給と休息も大切です。 【予防接種】本物の病原体が入ってくる時に備えて体に練習をさせておくしくみです。 予防接種を受けると、体を守る力が病原体の特徴を覚え、本物の病原体が入ってきた時に、体を守る力がすばやく働き、病原体を体の中で増やさないようにします。		◆ スライドを表示して確認内容を説明 ◆ グループ発表で、予防接種の言及がなかった場合は、生活習慣のほかに予防接種も体の抵抗力を高められると説明する。 ● 睡眠時間には個人差があるが、できれば8時間以上を確保することが望ましい。午前中に眠気を感じる場合は、睡眠時間が不足している可能性があるため、生活リズムを見直すきっかけとして扱う。 ● 「好き嫌いをしない」といった表現は避け、体質やアレルギー等にも配慮して必要な栄養をとることの大切さを伝える。 ● 運動：体を動かすことは、体力をつけることや生活リズムを整えることにもつながる。 ● 暑さが本格化する前の春ごろから少しずつ体を暑さに慣れさせることも大切である。 ● 予防接種については、接種の有無を児童に尋ねたり、接種を一律に勧めたりしない。感染症予防の方法の一つとして扱う。
生活への接続 10分	4-2. 目標設定 【発問例】今日の学習をもとに、自分が今日からできる感染症予防の行動を一つ決めましょう。自分だけでなく、クラスみんなの健康を守るためにできることも考えてみましょう。		◆ 個人目標は、児童が自分の生活に合わせて無理なく実践できる内容にする。家庭の事情や体調、接種状況に関わる内容を強制しない。